

令和3年(2021)1月、流山市の人口は20万人をこえました。100年前の大正9年(1920)の約20倍です。100年前の流山は、流山町・新川村・八木村の3つに分かれていて、土地の使われ方も今とはずいぶんちがっていました。土地のようすに合わせた人々のくらしのようすを、写真や聞き書きの本などで調べてみることもできます。

<10>町めぐり
<11>村めぐり

米や麦、豆などの量をはかるものに、**一斗**があります。その中で一番大きなものが「一斗いっとう」です。1合の100倍=1升の10倍=1斗=約18とこの量はかさを横にす1切って、平らにして正確な量ををはかれます。砂場でのような遊びをほかにいいます。

<7>まるで砂遊び？

親しみやすい言葉で2万石の俳句をよんだ小林一茶。長野県生まれの一茶と流山はどんな関係があるのでしょうか。江戸に出た一茶は、俳句の修行で各地を回った後に、俳句仲間が住む流山を何度も訪れました。その仲間がみんな事業を成功させた**秋元双樹**です。一茶は双樹の家に泊まり、一緒に俳句を作りました。その場所は**一茶双樹記念館**として整備・公開されています。

<6>俳句の名人
小林一茶

江戸時代、幕府の馬を育てるための放牧地が流山にありました。小金牧と呼ばれ、牧の近くに住む人々が管理を手伝っていました。村々の境には土手や堀を作れ、馬が逃げ出すのを防いでいました。これが**野馬土手・野馬堀**です。小金牧で将軍が狩の行事「御鹿狩」をしたという記録が残っています。この時も周辺の村からたくさんの農民が手伝いに出されました。

<4>将軍が来た!!

これできみも
はくぶつかんマイスターだ!
また遊びに来てね。

流山市立博物館

はくぶつかん
ものしりブック
(II)

はくぶつかん
ものしりブック
(II)

ゆかのシールの番号をさがしてもっとくわしく見てみよう!

<2>はにわ

流山市にはいくつかの古墳こふんがあります。中でも東深井古墳群ひがしふかいこふんぐんからは、たくさんの**埴輪**が見つっています。埴輪は、古墳の上や周りに置かれていました。円筒形や、魚・にわとり・馬などの動物、人などいろいろな形があります。人を表した埴輪をよく見ると、男女による髪型や持ち物にちがいがあることがわかります。

<3>流山にもお城が!

流山では4か所の城あとが見つっています。全て今から450年くらい前の中世のものです。お城というと立派な天守閣や高い石垣をイメージしますが、流山の城は自然の地形を利用し、土をけずったり盛ったりして築いたものでした。調査が行われた花輪城と前ヶ崎城からは、堀や土塁のあとが見つかり、現在は公園として整備されています。

1 枚の紙で製本してみよう

———— 切る

..... やまおい

..... たにおい

1 枚の紙に印刷して、つくってみてね！